

NECの実践事例から紐解く
働き方DX推進の実態とは

企業変革のその前に！ IT部門が挑むべき 「パンドラの箱」

経営環境が激変する今、企業の競争力向上のために、情報システム部門は、何が求められているのでしょうか？

業績低下の危機にあったNECは、社員の声を集め、抜本的な変革を決意しました。しかし、その変革のためには、本質的なITシステムの課題「パンドラの箱」に向き合う必要があったのです。本ホワイトペーパーでは、当時のNECの試行錯誤と、そのノウハウをどのようにお客様のご支援にいかしているのかをご紹介します。

CONTENTS

I	NECはどのように働き方を変えていったのか	P. 2
II	NECの変革に立ちふさがったパンドラの箱とは	P. 3
III	お客様の変革、そこにはどんな“箱”があったのか？	P. 5
IV	NECが提供できる価値	P. 6

I | NECはどのように働き方を変えていったのか



急速に変化するビジネス環境に対応できる経営環境を構築するには、従来型のITや労働環境から変革する必要があります。本ホワイトペーパーでは、変化に柔軟に対応できる環境構築の要諦を事例を交えてご紹介していきます。

I 創業119年目の大変革「Project RISE」

2018年、創業119年目を迎えたNECは、急速な市場変化に苦戦し、業績が停滞していました。そこで、変化に強い経営環境を築いていくため、トップダウンで、全社的に従来のITや労働環境を見直し、スマートワークへの転換を決断。

社員の成長を促す人事評価制度とスマートな働き方の実践を目指し、ビジネスインフラの整備と人・カルチャーの変革を実現する「Project RISE」がスタートしました。

Project RISE

NEC 119年目の大改革

現場の声を聞き、グループ全体11万人のベクトルを合わせる

社員の成長を促す人事評価制度とスマートな働き方を実践

NECグループを、この時代も最高の結果を出せるチームとし
社員が仕事の喜びを感じ、誇れる企業にするために。
時代を越えて選ばれ続け、持続的な成長ができる企業基盤を再構築するために。

※ Project RISEとは、NECグループの変革活動の総称です。

総合的な取り組みによって3年で変革を遂げる

変革前の環境では、オフィスも人も組織毎に固定化されており、それぞれが自分の手で届く範囲で働いていました。人やノウハウが個別最適化し、社員同士でシナジーを生み出すことができない状態にありました。

そんななか、「Project RISE」の取り組みで、社員11万人の声を集め課題を特定し、ITシステム、ワークスペース、人事制度を同時進行で変革しました。3年間の取り組みを経て、テレワークや出社を柔軟に選択でき、コミュニケーションも緊密にとれる環境を作り上げました。

Before

IT企業なのに社内システムが古い

無駄な業務が多く、生産性が低い

人事評価がフェアではない

ワークライフ・バランスが妨げられている

多様な人材が働ける環境になっていない

画像はイメージです。

After

総合的な取り組み

ワーク
プレイス

ワーク
プリンシプルズ

デジタル
テクノロジー

雑然としたオフィスからフリーアドレスのすっきりとした環境へ

“動作が遅くて使いにくい”は過去の話 現在のクラウド型仮想デスクトップの快適さ

現在のNECのクライアント環境を支えているクラウド型仮想デスクトップ。従来は“遅延しがち”という印象がありましたが、様々な試行錯誤を経て、安定稼働できています。海外出張でも日本のオフィスと同等のアクセスが可能で、従来のファットクライアントと遜色のない操作性を実現しています。



WEB会議をしながらマルチディスプレイで操作が可能。(写真左)、海外出張時でも国内のオフィスと同等の接続スピード(写真右)